



相原信洋

風景論としてのアニメーション

講師 阪本裕文 (映像研究者)

2018年11月4日(日) 17:00-
於 鳥取大学コミュニティデザイン・ラボ
入場無料

風景/映画再考Vol.5

<http://qspds996.com/landscapefilm>

風景／映画再考Vol.5

相原信洋——風景論としてのアニメーション

風景／映画再考の第5弾は、映像研究者の阪本裕文氏を講師にお迎えして、日本を代表する個人アニメーション作家・相原信洋氏(1944-2011)の上映会および講座をおこないます。

第1部では、代表作の上映を軸に相原氏のフィルモグラフィーを辿るとともに、NPO法人戦後映像芸術アーカイブによる、相原作品のデジタル復元やアーカイブ化への取り組みについて紹介していただきます。

第2部では、今年3月に発見された幻の初期作品『風景の死滅』(1971年)の上映を軸に、アニメーション制作を通じて政治や社会の問題に切り込むドキュメンタリー作家・風景論映画作家としての相原氏の側面に迫ります。

第2部 風景論としてのアニメーション

相原信洋のフィルモグラフィーには、ドキュメンタリーや風景論映画に接近した作品が存在する。新たに発掘された『風景の死滅』を始めとする作品によって、相原のもうひとつの側面に光をあてたい。(48min)

- 『風景の死滅』(8mm,15min,1971)
- 『やまかがし』(16mm,5min,1972.3)
- 『逢仙花』(16mm,12min,1973.4)
- 『SHELTER』(16mm,7min,1980)
- 『MY SHELTER』(16mm,9min,1981.10)



『風景の死滅』

阪本裕文

1974年生まれ。映像研究。稚内北星学園大学情報メディア学部情報メディア学科教授・NPO法人戦後映像芸術アーカイブ代表理事。共著『アメリカン・アヴァンガード・ムービー』(森話社、2016年)、編著『松本俊夫著作集成』(森話社、2016年)など。

戦後映像芸術アーカイブ

戦後日本における非商業的な作品と、それに関わる文書資料をデジタル化して、研究者および美術館映画祭などへ提供する特定非営利活動法人。2014年1月に大学教員や美術館学芸員によって設立された。

相原信洋

1944年、神奈川県生まれ。デザイン学校に学んだのち、スタジオゼロやオープロダクションでTVアニメのアニメーターとしての仕事に取り組み。その一方で、1965年より個人としての制作も開始し、「あめ」(1965年)を実質的な第一作として、数々の実験的かつサイケデリックなアニメーションを発表した。代表作に『カルマ』(1977年)、『STONE』(1975年)、『映像(かげ)』(1987年)など。後進の指導にも熱心に取り組み、京都造形芸術大学で教鞭をとったほか、各地でアニメーションワークショップを開催した。2011年、インドネシアのバリ島を旅行中に逝去。



『アンダー・ザ・サン』

第1部 Animated Psychedelia

相原信洋のフィルモグラフィーを代表する、フレームの枠を飛び越えた実験的なアニメーションと、混沌としたサイケデリックアニメーションの数々を上映する。(42min)

- 『STONE』(16mm,8min,1975)
- 『アンダー・ザ・サン』(16mm,11min,1979)
- 『カルマ』(16mm,3min,1977.8)
- 『逢魔が時』(16mm,4min,1985)
- 『映像(かげ)』(16mm,8min,1987)
- 『WIND』(16mm,5min,2000.4)
- 『LOTUS』(16mm,3min,2007)

『映像(かげ)』

2018年11月4日(日) 17:00-

鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ
入場無料

企画 佐々木友輔
主催 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
平成30年度鳥取大学地域学部長経費事業
ウェブ <http://qspsd996.com/landscapefilm>
問い合わせ sasakiyusuke@rs.tottori-u.ac.jp

